

令和 3 年 5 月 18 日現在

機関番号：34310

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13549

研究課題名（和文）紀元前2千年紀ヒッタイト王国によるアナトリア支配の実態と王国の境界

研究課題名（英文）Territories and Borders in Hittite Anatolia

研究代表者

山本 孟 (Yamamoto, Hajime)

同志社大学・神学部・日本学術振興会特別研究員 (PD)

研究者番号：90793381

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、紀元前2千年紀に栄えたヒッタイト王国によるアナトリア支配の実態と、国土の境界の解明を自指した。具体的には、「支配」・「境界」にかんするヒッタイト語彙の分析と、象形文字ルウィ語碑文モニュメントの踏査と内容読解により、ヒッタイト王国がアナトリアのどの地域を直接的に支配する領域と捉えていたのか、そして国の境界はどこにあると認識していたのかについて考察した。その結果、ヒッタイト王家は、南北には黒海から地中海に至るアナトリア中央と東はユーフラテス川に至る地域について、固有の領土あるいは支配すべき領土であると認識していたことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、ヒッタイト王国のアナトリアにおける領土と国境の広がりをも明らかにした。また同時に、領土・境界に対する王家の認識を明らかにしたことにより、王権のイデオロギーの理解を深められた。本研究の成果は、ヒッタイト研究における王権にかんする研究に貢献しただけでなく、周辺の古代近東諸地域における王権のイデオロギーと比較することのできる基礎的研究となった。なお本研究では、成果の一部として、ヒッタイトの歴史や勢力図を作成し、個人のホームページを構築して掲載した。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study was to understand the actual condition of Hittite rule in Anatolia and the geographic extent of their kingdom by investigating the Hittite recognition of the territories under their direct control and the locations of borders through an analysis of the Hittite terms relating to "governance" and "border" in the Hittite texts. As a result, this study suggests that the Hittite royal house recognized Central Anatolia from the Black Sea to the Mediterranean Sea and the lands to the Euphrates in the east as their own lands.

研究分野：ヒッタイト学

キーワード：ヒッタイト王国 支配 境界 象形文字ルウィ語

## 1. 研究開始当初の背景

紀元前 2 千年紀後半、アナトリア高原(現在のトルコ共和国)をヒッタイト王国が支配した時代のオリエント世界は「多極化の時代」を迎えていた。地域大国の一つであったヒッタイトの王は、エジプトやバビロニアといった他の地域大国の支配者と同様、王の中の王を表す「大王」の称号を名乗り、周辺の国々を従属させていた。ヒッタイト王国は、アナトリアとシリア北部の多くの諸国の支配者に宗主権条約と姻戚関係を結ぶことで、それを支配の証としていた。

しかしながら、ヒッタイトによる支配のあり方は地域によって大きく異なっていた。ヒッタイトがアナトリア中央高原から勢力の拡大を始めた紀元前 14 世紀以前、アナトリアの北部は周辺部族の支配的な領域であったし、南部にはヒッタイト王が自らと対等であるとみなした支配者が存在していた。また、エーゲ海周辺地域の諸国は、宗主権条約と姻戚関係を結んでヒッタイト王を宗主と認めた後も反ヒッタイト勢力の拠点であったことから、現実的に支配が及んでいたとは考えにくい。歴史的な背景が異なるアナトリア各地域ではヒッタイトによる支配のあり方にも大きな違いがあったと想定される。このようにヒッタイトの領域が不明確である背景には、ヒッタイト文書の大多数が都から出土したもので、地方を視点とした研究が困難であるという問題がある。そこで申請者は、中央政府が発行した地方の行政・宗教に言及する文書と被支配民の言語で記された碑文を史料とし、それらを地域別に比較することでヒッタイト王国の地方統治に迫ろうと考えた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、ヒッタイトの実質的な支配が及んだ領域とその変遷を明らかにし、アナトリアにおける本国と従属国との境界を解明することであった。楔形文字粘土板文書におけるヒッタイト語彙の語用分析と、象形文字ルウィ語碑文を始めとする地方における行政および宗教にかかわるヒッタイト語文書の読解によって、各時代・地域にヒッタイト中央政府の支配がどのように実施・徹底されていたのかを理解する。さらに、その成果を考古学研究で得られる知見と照らし合わせながら、ヒッタイトの勢力図を作成することも目指した。

## 3. 研究の方法

本研究は、古王国時代から新王国時代にいたるヒッタイト王国の歴史の中で、アナトリアの各地域における王国の支配・影響力の推移を理解するため、以下のアプローチを試みた。

### (1) 本国と従属国の境界解明

ヒッタイト語文書において「支配する」(*manniyah-*)および「境界」(ZAG)を意味するヒッタイト語表現がどのように使用されているかを地域別に比較する。「支配」および「境界」を意味するヒッタイト語がいかに使用されているか地域別に用例を分析し、中央政府が支配の及ぶ地域の境界をどのように認識していたのかを理解する。

### (2) 象形文字ルウィ語碑文にみる本国と従属国の境界

紀元前 2 千年紀後半のアナトリア南部および西部には、ルウィと呼ばれる人々が多く居住していた。彼らは、支配者層が使ったヒッタイト語と言語学的に近縁関係にあるルウィ語の話者であった。アナトリア各地に残された象形文字で書かれたルウィ語の碑文は、ヒッタイト本国と従属国(あるいは都市)の境界を示すために建てられた可能性がある。アナトリア各地に残る被支配民の言語が記された象形文字ルウィ語碑文の内容を地域別に比較することで、中央政府による支配の地域差を明らかにし、本国と周辺従属国との境界を推定する。また、トルコ現地での踏査を実施し、推定された境界が妥当であるか否かを判断する。

### (3) 研究成果の公開

ホームページを作成し、本研究で得られた結果をもとに作成するヒッタイト王国の歴史地図と領域の時代変遷を示した動画を、ヒッタイトにかんする記事および史料の翻訳と合わせて掲載する。

## 4. 研究成果

本研究では、紀元前 2 千年紀に栄えたヒッタイト王国によるアナトリア支配の実態と、国土の境界の解明を目指した。具体的には、「支配」「境界」にかんするヒッタイト語彙の分析と、象形文字ルウィ語碑文モニュメントの踏査と内容読解により、ヒッタイト王国がアナトリアにおいてどの地域を直接的に支配する領域と捉えていたのか、そして国の境界はどこにあると認識していたのかについて考察した。その結果、ヒッタイト王家は、南北には黒海から地中海に至る

アナトリア中央と東はユーフラテス川に至る地域について、固有あるいは支配すべき領土と認識していたことが明らかになった。

初年度はヒッタイト語文書に見られる「支配」と「境界」を意味する語の用例を分析し、支配領域についてのヒッタイト側の認識を理解することを目指した。これらの語が使用されているヒッタイト語文書を読解し、アナトリア中央の本国とされる地域とそれ以外の地域で使われる際の違いを確認した。また、夏期にはヒッタイト王国の属国となっていた地域であるトルコ西部に残る象形文字ルウィ語碑文を調査・写真撮影を行い、資料収集を開始した。上述の研究で得られた結果を基に、(1) 第9回国際ヒッタイト学会で“The Imposition of Legal Bonds and Matrimonial Ties by Hittite Kings”を、(2) 日本オリエント学会第59回大会で「ヒッタイトの支配領域と境界について」を口頭発表した。また、(2)の成果を基に、(3) 同志社大学で開かれた Workshop on Ancient Near Eastern Royal Ideology では“The Concept of the Territory and the Definition of Borders by the Hittites from the perspective of the royal ideology”を口頭発表した。(1)ではヒッタイトの支配政策の理念をまとめ、(2)では「支配」と「境界」を意味する語の用例からヒッタイト側が直接支配していると認識していた地域がアナトリア中央にとどまらず、アナトリア南部およびシリア北部の一定地域に及ぶ可能性を示した。(3)では、シリアにおいて一定の地域から以南が国外であると認識されていたことを指摘して(2)の説を補強した。

次年度は、ヒッタイト語文書に見られる「支配」と「境界」を意味する語の用例を分析結果に基づき、ヒッタイト側のアナトリアの西部および南部に対する支配の認識の理解を目指した。書簡資料の精読に加え、ヒッタイト時代およびその後の象形文字ルウィ語碑文の現地調査を実施した。その結果、前13世紀に副王の国となったアナトリア南部のタルフンタツシャ国に加え、同世紀後半には西部のミラ国もそれに準じる地位と見なされた可能性があると考えられた。その成果は、日本オリエント学会第60回大会で「ヒッタイト王国による東西の辺境支配について アナトリア西部の支配を中心に」で口頭発表した。また、国家の祭儀記録と神々への祈祷文を用いて、王国の主神と支配領土についての研究を行なった。なお、同年には日本学術振興会特別研究員の課題研究にかんして、ヘルシンキで開催された国際聖書文学学会に参加し、“Divine Embodiment of Territorial Boundaries of the Hittite Kingdom”という題目で口頭発表を行い、ヒッタイト王国の王権観と領土との関連性について報告した。この研究は、中央政府による各都市の都市神の信仰および同地の支配に対する基礎的理解と位置づけられた。

三年次は、これまでの研究成果をまとめ、象形文字ルウィ語碑文から本国と従属国の境界についての研究を行った。前年度までに実施したヒッタイト語文書に見られる「支配」と「境界」を意味する語の用例の分析により、特に「支配する」という語は王家が本国とみなす限られた地域にしか使用されないことがわかった。その結果に従えば、ヒッタイト王国最盛期には、南北は黒海からアナトリア中央、地中海に至る地域を、南東ではユーフラテス川に至る地域までを本国と考えていたのだと理解された。この点については、Hajime Yamamoto, “The Concept of Territories and Borders in Hittite Royal Ideology,” *Oriens* vol. 55, pp.29-41, 2020にて発表した。また、アナトリア各地に残る象形文字ルウィ語碑文の内容と建造者、モニュメントの立地状況などから、ヒッタイトは、元来、本国の「外」であったエーゲ海地域をも本国に取り込もうとした一方、南部は王国末期には本国から離反する動きが加速していたことが確かめられた(山本孟「ヒッタイト王国時代の象形文字碑文についてのトルコ現地調査」『一神教学際研究』15, pp.51-61, 2020年)。

なお、象形文字ルウィ語碑文とそのモニュメントの写真資料と、本研究の成果として得られたヒッタイト勢力図などについては、個人のウェブサイトを開設して公開している(山本孟「ヒッタイトの世界」<https://hittiteanejphy.com/>)。これまでに得られた結果を踏まえ、古王国時代から新王国時代にいたるヒッタイト歴史地図を作製し、これをホームページに掲載している。ヒッタイト王国における本国領土の概念とその背景にある王家のイデオロギーを明らかにしている。令和2年度には、これまでの成果をまとめ、山本 孟「ヒッタイト王権観における領土の保全と拡大について」にて、神々と王権、そして領土の関係性について考察した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Hajime Yamamoto	4. 巻 55
2. 論文標題 The Concept of Territories and Borders in Hittite Royal Ideology	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 29-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山本 孟	4. 巻 15
2. 論文標題 ヒッタイト王国時代の象形文字碑文についてのトルコ現地調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 —神教学際研究	6. 最初と最後の頁 51-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山本 孟	4. 巻 11
2. 論文標題 『ハットゥッシリ 3 世の弁明』における「愛」「愛」を意味するヒッタイト語の表現について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 —神教世界	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山本 孟	4. 巻 87
2. 論文標題 京都大学総合博物館所蔵楔形文字粘土板(2) アケメネス朝時代バビロニアにおける売買契約文書	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西南アジア研究	6. 最初と最後の頁 158-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Hajime Yamamoto
2. 発表標題 The Hittite Concept of Defilement and Expansion of Territories
3. 学会等名 Conference on International Cultural Diversity in the Ancient Near East (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本 孟
2. 発表標題 ヒッタイト王国時代の象形文字碑文にかんするトルコ現地調査
3. 学会等名 第62回シュメール研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本 孟
2. 発表標題 ヒッタイト王の神々に対する敬意の表し方
3. 学会等名 日本オリエント学会第61回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本 孟
2. 発表標題 ヒッタイト王国の世界観と国土の東西への広がり
3. 学会等名 第49回エジプト研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本 孟
2. 発表標題 ヒッタイト王国の境界と神の「膝」について
3. 学会等名 第61回シュメール研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hajime Yamamoto
2. 発表標題 Divine Embodiment of Territorial Boundaries of the Hittite Kingdom
3. 学会等名 2018 International Meeting of the Society of Biblical Literature, Helsinki (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本 孟
2. 発表標題 古代アナトリアのヒッタイトにおける「不浄」について
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本 孟
2. 発表標題 ヒッタイト王国による東西の辺境支配について アナトリア西部の支配を中心に
3. 学会等名 日本オリエント学会第60回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本 孟
2. 発表標題 ヒッタイト文書にみる男女の「愛」について
3. 学会等名 －神教学際研究センター「若手研究者による古代中近東研究会」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hajime Yamamoto
2. 発表標題 The Divine Orders and the Relationship between the King and State Gods in the Religious and Military Contexts of the Hittite Texts
3. 学会等名 The 18th Assyriological Workshop
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hajime Yamamoto
2. 発表標題 The Imposition of Legal Bonds and Matrimonial Ties by Hittite Kings
3. 学会等名 10th International Congress of Hittitology (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本 孟
2. 発表標題 ヒッタイトの支配領域と境界について
3. 学会等名 日本オリエント学会59回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hajime Yamamoto
2. 発表標題 The Concept of the Territory and the Definition of Borders by the Hittites from the perspective of the royal ideology
3. 学会等名 Workshop on Ancient Near Eastern Royal Ideology (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

ヒッタイトの世界 <a href="https://hittiteanejphy.com/">https://hittiteanejphy.com/</a>
---

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Conference on International Cultural Diversity in the Ancient Near East	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------